

平成23年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	創薬等支援技術基盤プラットフォーム		担当部局庁	研究振興局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度～		担当課室	ライフサイエンス課		ライフサイエンス課長 石井康彦		
会計区分	一般会計		施策名	Ⅸ-2 科学技術振興のための基盤の強化				
根拠法令(具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	新成長戦略(平成22年6月閣議決定)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	創薬プロセス等に活用可能な最先端創薬等研究施設を保有する研究機関に対して、研究者等による当該施設の利用促進及び創薬プロセス等に活用可能な技術基盤の整備等を行うための経費を補助することにより、創薬等支援技術基盤の強化を図ることを目的とする。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	創薬・医療技術に活用可能な最先端の計測・分析装置等を企業や大学等に対して広く共用するとともに、共同利用の促進に取り組む。また、広く研究者が最先端の創薬・医療技術支援基盤を共用する取り組みを支援するとともに、研究者等の利便性及び研究の効率性の観点から、これらの基盤が一体として活用できる体制を整備し、共用のために必要な運営経費等を支援。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額(単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	-	2,268	4,316	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	-	-	-	2,268	4,316	
	執行額		-	-	-	-		
執行率(%)		-	-	-	-			
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	創薬等に活用可能な最先端研究基盤を共用した件数		成果実績	件				創薬・医療技術支援基盤の強化を着実に実施
			達成度	%				
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	機関数及び拠点数		活動実績(当初見込み)	機関数 拠点数				21 4 () ()
単位当たりコスト	108(百万円/機関)		算出根拠	108(百万円/機関) =(平成23年度当初予算額:2,268百万円)/(実施見込機関数:21)				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	研究開発施設共用等促進費補助金	2,238百万円	4,274百万円	創薬等支援技術基盤の高度化、新たな創薬手法等を実現するための生命動態システム科学を推進する拠点の形成等に伴う増2,035百万円				
	科学技術試験研究委託費	21百万円	29百万円					
	非常勤職員手当	4.4百万円	3.9百万円					
	諸謝金	0.7百万円	2.2百万円					
	職員旅費	1.4百万円	2.4百万円					
	委員等旅費	0.9百万円	3.0百万円					
	庁費	0.6百万円	1.5百万円					
計	2,268百万円	4,316百万円	※四捨五入により合計額は一致しない					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○全ての採択機関について、支出先・使途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。</p> <p>○成果報告書の提出等により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について年度ごとに確認する。</p> <p>○技術開発拠点の外部共用を進めるとともに、創業等の新たな研究開発のための技術支援基盤の強化を行うべき。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
		<p>本事業は、平成21年度行政事業レビューの指摘を踏まえたものとなっており、執行面における課題もなく、事業の成果目標もたてられていることから、適切な事業と認められる。</p>	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

文部科学省

2, 268百万円

非常勤職員手当 4.4百万円
職員旅費 1.4百万円
委員等旅費 0.9百万円
諸謝金 0.7百万円
庁費 0.6百万円

を含む

創薬プロセス等に活用可能な最先端創薬等研究施設を保有する研究機関に対して、研究者等による当該施設の利用促進及び創薬プロセス等に活用可能な技術基盤の整備等を行うための経費を補助することにより、創薬等支援技術基盤の強化を図ることを目的とする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

[公募・交付]

A. 創薬等支援技術基盤プラットフォーム
: 2, 238百万円

大学・独立行政法人等(全21機関)

[公募・委託]

B. 創薬等支援技術基盤プラットフォーム
支援事業 : 21百万円

独立行政法人科学技術振興機構

創薬・医療技術に活用可能な最先端の計測・分析装置等を企業や大学等に対して広く共用するとともに、共同利用の促進に取り組む。また、広く研究者が最先端の創薬・医療技術支援基盤を共用する取り組みを支援するとともに、研究者等の利便性及び研究の効率性の観点から、これらの基盤が一体として活用できる体制を整備し、共用のために必要な運営経費等を支援。

創薬等支援技術基盤プラットフォームにおける課題採択における審査、研究の評価、事業の管理等の事務を支援。

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

A. 大学・独立行政法人等(全21機関)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	創薬等支援技術基盤プラットフォーム	2,238			
計		2,238	計		0
B. 独立行政法人科学技術振興機構			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
委託費	支援業務委託費	21			
計		21	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0